

各団体における取組

【埼玉県消費者団体連絡会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 2月17日、埼玉県食品安全局と埼玉県消費者団体との懇談会を開催。食品衛生監視指導計画や食中毒の状況、コロナ禍における保健所の現状、HACCP（ハサップ）、鳥インフルエンザ等をテーマに懇談し、埼玉県の施策について理解を広げました。
- ・ 昨年3月に開催予定だった関東農政局との意見交換会を10月30日に「ゲノム編集」をテーマに開催。25人が参加し、活発に意見交換を行いました。
- ・ 「2020 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」は中止。

○ 令和3年度の取組計画

- ・ 埼玉県消費者団体連絡会を中心に、埼玉県食品安全局との懇談を計画、地産地消推進、地域の食育推進など、意見交換をおこないます。

【埼玉県生活協同組合連合会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 例年9月に開催している埼玉県生協連とJA全農さいたま共催の「体験稲刈り&田んぼの生きもの調査」は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。JA埼玉県女性組織協議会と会員生協組合員の交流の場「第26回早春交流会」は2月に開催し、コロナ下での共同組合活動についてオンラインで交流しました。
- ・ 会員生協による生産者との交流・学習は実開催は中止となりましたが、オンラインでの開催に移行しつつあり、学習、交流を継続したところもありました。
県内生産者をはじめとする交流→農作業体験・収穫体験・収穫祭などの取組。
県内生産者をはじめとする学習→地場野菜の学習と調理講習会などの取組。
- ・ 彩の国食と農林業ドリームフェスタは中止。

○ 令和3年度の取組計画

- ・ 会員生協による親子農業体験、県内生産者との交流・学習の実施。
- ・ 会員生協による地場産農産物を使った郷土料理を伝承する取り組みを通しての地域とのつながりづくり。
- ・ 会員生協による県内生産者と共同した商品づくり。
- ・ JAとの協同組合間連携によるお互いを知る取り組みの深化、農業体験、地産地消の取り組み、交流など。
*いずれも、コロナ禍でも開催できる方策を模索しながらすすめています。

【新日本婦人の会埼玉県本部】

○ 令和2年度の取組

- ・ 1990年から「産直運動」を実施。「食べて、学んで、美しく」をスローガンに30年間にわたり多様な取り組みを展開してきました。
- ・ 生産者との交流を大切に、田植えや稲刈り体験などをおこなっています。体験だけでなく、生産者を訪ねて直接お話を聞く「産直ツアー」や郷土料理を大切にする視点を取り入れてきました。大豆トラスト運動での味噌づくりも行いました。
- ・ 食の安全に関わる農薬・添加物、遺伝子組み換え、ゲノム編集、自然エネルギーの問題なども学習しました。



○ 令和3年度活動計画

- ・ 田植えや稲刈りの農作業体験の継続した実施。
- ・ 埼玉県産米の消費拡大に関する学習会の実施。
- ・ 「産直ツアー」の継続実施。県産米や県産農産物を使った手づくり体験会や料理会を県内各地で実施検討。
- ・ 産直品を美味しく食べる料理グループの実施を検討。
- ・ 「食」の安全や「種」、SDGsに関する学習会などの開催

【一般社団法人埼玉県調理師会】

○ 令和2年度取組

- ・ 県民の健康づくりのために食生活の改善、食品衛生の推進、安心安全な食品の推進と会員の資質向上、調理師技術、健康食育の推進・啓発。
- ・ 地産地消を会員に協力依頼。
- ・ 健康づくり協力店の推進。
- ・ 埼玉県鮭組合…埼玉県産野菜すしの勉強会と料理教室（6月・9月）
 寿司割烹 山水にて
- ・ 調理師による県民の食生活の向上に関する条例の実施 → プリントの配布

○ 令和3年度取組計画

- ・ 県民の健康づくりのために食生活の改善、食品衛生の推進、安心安全な食品の推進と会員の資質向上、調理師技術、健康食育の推進・啓発。
- ・ 地産地消を会員に協力依頼。
- ・ 健康づくり協力店の推進。
- ・ 調理の工夫及び研究。
- ・ 調理師による県民の食生活の向上に関する条例の実施。
- ・ （公社）日本調理師会主催の全国こども愛情弁当コンテストへの協力
- ・ コロナウイルス感染拡大防止の対応
- ・ 埼玉県鮭組合…埼玉県産野菜すしのデモンストレーション(9月か10月頃)
- ・ 埼玉県調理師大会に於いて埼玉県産野菜のアイデア料理等を作成・展示（11月）

【埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会】

○ 令和2年度取組

- ・ 食育月間(毎年6月)、食育の日(毎月19日)の普及啓発
- ・ 県内産の米を使った県民向けの料理教室を開催
 米料理教室は、26市町30回会場(636名)で実施
- ・ 地域の行事食、伝統食の継承
- ・ コロナ禍で地産地消の啓発としての県の米をはじめ農産物を利用したイベントでの試食づくり、宣伝活動の中止
- ・ 地場産の食材を使ったコバトン健康メニュー(塩分3g未満、野菜120g以上、カロリー500～700カロリーまで)の新メニュー開発と既存メニューの県民への普及(県内19市町で実施)、(県のホームページに随時掲載し、クックパッドにも掲載)



○ 令和3年度取組計画

- ・ 食育月間(毎年6月)、食育の日(毎月19日)の普及啓発
- ・ 県内産の米を使った県民向けの料理教室を開催
米料理教室は、30市町で実施予定
- ・ 地域の行事食、伝統食の継承
- ・ 地産地消の啓発として、県産米をはじめとした農産物を利用したイベントでの試食づくり、宣伝活動
- ・ 地場産の食材を使った埼玉県コバトン健康メニュー(塩分3g未満、野菜120g以上、カロリー500~700カロリーまで)の新メニュー開発と既存メニューの県民への普及(県内20市町で実施)(県のホームページに随時掲載、クックパッドにも掲載)
- ・ 各市町の特産品を使った県内各地のレシピ集の作成(令和4年2月発行)

【埼玉県農業協同組合中央会】

○ 令和2年度の取組

| 実施時期 | 取組 | 実施内容 |
|----------------|-----------|--|
| 3月ー4月 6月ー7月 | 直売所キャンペーン | <p>新型コロナウイルスの影響を受けた品目をはじめとする県産農畜産物の消費回復および農産物直売所への地域住民の来訪の促進による新たな購買機会の創出を目的に『食卓を県産農畜産物で彩ろうキャンペーン』を以下のとおり実施した。</p> <p>(3月ー4月)</p> <p>J A農産物直売所において、県内(J A管内)花き農家から仕入れたポット花または切り花を利用者に無償配布した。また、事業実施期間に販売される埼玉県産米について、割引販売を行った。</p> |

| | | |
|----------------|-----------------------------------|---|
| | | (6月ー7月) J A農産物直売所において、2,000円(税込)以上購入した利用者を対象に、県産農畜産物(埼玉県産花卉又は彩の国黒豚)をプレゼントした。 |
| 6月23日、 7月9日 | 健康で風土に合った 食生活研修会 | 県産農産物を使用した調理実習。 |
| 8月31日 | 広告掲載(埼玉新聞) | 野菜の日にちなんで、8月31日付埼玉新聞に特集記事及び広告を掲載。 |
| 11月30日 | 埼玉県地産地消ブラン ド農産物を味わう 集い | 県産農畜産物のPR。 |
| 9月~12月 | 新米キャンペーン | ①県産新米の購入者に対し、プレゼントを実施。 ②浦和レッズ選手の起用やNACK5を活用して、県産米のPR。 |
| 以下 周年 | J Aグループさいたま「地産地消・みんなの良い食プロジェクト」運動 | 子供たちに稲作事業の多面的機能とお米・ごはん食の重要性を広くPR。 |
| | 生産履歴記帳運動 | 各種研修会を開催することによる、生産履歴記帳運動の充実強化。 |
| | J A農産物直売所PR | 地産地消の実践によるJ A、地域農業の理解促進、消費者のニーズ把握、HACCP理解促進のためのJ A農産物直売所の研修会の開催。 |
| | 県産農産物のメディア等を通じたPR | ①FM NACK5にて番組「彩の国トレたてモーニング」放送。(周年) ②J Aグループさいたまホームページ「みらの」にて各種情報の発信。(周年) ③消費者向け情報誌「みらの」発行。(7月、11月、3月発行) ④J Aグループアプリ「J A旬みつけ！」にて、県産農産物・直売所のPR |
| | 各種PR資材の作成 | ①J Aグループキャラクター『笑味ちゃん』を起用した背景幕の作成。(イベント等にて使用) ②販促用腰巻の作成。(量販店イベント、各種PRイベントにて配布) |

○ 令和3年度を取組計画

| 実施時期 | 取組 | 実施内容 |
|-----------|---------------------------------------|--|
| 6月2日、11日 | 健康で風土に合った食生活研修会 | 県産農産物を使用した調理実習。 |
| 8月31日 | 広告掲載(埼玉新聞) | 野菜の日にちなんで、8月31日付埼玉新聞に特集記事及び広告を掲載。 |
| 11月20～21日 | 彩の国食と農林業の祭典「2021 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」の開催 | 会場において県産農産物のPR。 |
| 11月(予定) | 埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集い | 県産農畜産物のPR。 |
| 9月～12月 | 新米キャンペーン | ①県産新米の購入者に対し、プレゼントを実施。 ②浦和レッズ選手の起用やNACK5を活用して、県産米のPR。 |
| (時期未定) | 直売所キャンペーン | 埼玉県JA農産物直売所におけるキャンペーンの実施 |
| 以下 周年 | JAグループさいたま「地産地消・みんなの良い食プロジェクト」運動 | 子供たちに稲作事業の多面的機能とお米・ごはん食の重要性を広くPR。 |
| | 生産履歴記帳運動 | 各種研修会を開催することによる、生産履歴記帳運動の充実強化。 |
| | JA農産物直売所PR | 地産地消の実践によるJA、地域農業の理解促進、消費者のニーズ把握、HACCP理解促進のためのJA農産物直売所の研修会の開催。 |
| | 県産農産物のメディア等を通じたPR | ①FM NACK5にて番組「彩の国トレたてモーニング」放送。(周年) ②JAグループさいたまホームページ「みらの」にて各種情報の発信。(周年) ③消費者向け情報誌「みらの」発行。(7月、11月、3月発行) ④JAグループアプリ「JA旬みつけ！」にて、県産農産物・直売所のPR |
| | 各種PR資材の作成 | ①さいたま農産物かわら版の作成。(量販店イベント、各種PRイベントにて配布) ②販促用腰巻の作成。(量販店イベント、各種PRイベントにて配布) ③埼玉県農産物PRパンフレット等の作成。 |

【全国農業協同組合連合会埼玉県本部】

○ 令和2年度の取組

- ・ 全中・全農版生産履歴管理システムの普及促進
- ・ ホームページにて農畜産物の情報提供
- ・ 学校給食会への県産農畜産物の安定供給と連携強化
- ・ JA農産物直売所の運営改善支援
- ・ 埼玉県産秋冬野菜大田市場PRイベント(11月6日)
- ・ スーパー・量販店への販促強化及び県内農産物の地域内流通並びに彩の国黒豚の販売
- ・ 「埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集い」にて県産農畜産物PR(11月30日 さいたま市 パレスホテル大宮)
- ・ 埼玉県農商工連携フェア(農と食のオンライン展示・商談会 in SAITAMA 2021)にて県産農畜産物のPR及び販売促進(令和3年1月12日～2月26日までオンライン開催)
- ・ JAグループ国産農畜産物商談会にて県産農畜産物のPR及び販売促進(令和3年2月1日～3月31日までオンライン開催)

○ 令和3年度の取組計画

- ・ 全中・全農版生産履歴管理システムの普及促進
- ・ ホームページにて農畜産物の情報提供
- ・ 学校給食会への県産農畜産物の安定供給と連携強化
- ・ JA農産物直売所の運営改善支援
- ・ 埼玉県産春野菜大田市場PRイベント(4月20日)



- ・ 埼玉県産秋冬野菜大田市場PRイベントの検討
- ・ スーパー・量販店への販促強化及び県内農産物の地域内流通並びに彩のかがやき、彩のきずな、春夏野菜、秋冬野菜、彩の国黒豚試食販売等
- ・ JAグループさいたま農畜産物商談会にて県産農畜産物のPR及び販売促進
- ・ 2021 彩の国食と農林業の祭典(ドリームフェスタ)にて県産農畜産物販売促進(11月20日・21日 行田市 古代蓮の里)
- ・ 「埼玉県地産地消ブランド農産物を味わう集い」にて県産農畜産物PR
- ・ 埼玉県農商工連携フェアにて県産農畜産物のPR及び販売促進
- ・ JAグループ国産農畜産物商談会にて県産農畜産物のPR及び販売促進

【埼玉県森林組合連合会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 県産木材認証センターの運営（通年）
- ・ 合法木材製品の利用促進
- ・ 木育推進活動(令和2年3月 小川町へ木製ラック等寄贈)

○ 令和3年度 of 取組計画

- ・ 彩の国食と農林業の祭典の開催
（「2021 彩の国食と農林業ドリームフェスタ」 11月）
- ・ 県産木材のPR活動（通年 県内全域）
- ・ 木とのふれあいまつり（木材協会・年2回）
- ・ 県産木材認証センターの運営（通年）
- ・ 合法木材製品の利用促進
- ・ 木育推進活動

【埼玉県食品工業協会】

○ 令和2年度の取組

県産農産物を利用した加工食品の開発・販路拡大・広報活動

- ・ 埼玉県産農産物の使用推進
醤油の原料の小麦はほぼ埼玉県産
- ・ 県事業を活用し、県産野菜を使用した新しい漬物の開発
- ・ 各酒造会社の使用する米、さけ武蔵、彩のかがやき等
新規事業として、酒造用好適米 山田錦の生産
（秩父産山田錦で造った日本酒の販売）
- ・ Made in Saitama 優良加工食品大賞 2021 への応募 大賞他受賞
- ・ 埼玉県物産観光協会主催 埼玉県新商品 AWARD 2020 への出品 入賞
- ・ 各種フェア、イベントに出展
「全国日本酒フェア」オンライン開催（10月25日）
埼玉の日本酒をPR
- ・ 全国通販食品展示商談会（12月1日、2日）東京有楽町東京交通会館にて県産日本酒をPR
- ・ さいたま市大宮区「武蔵一宮 大宮氷川神社への菰樽奉納」により埼玉県の日本酒PR

○ 令和3年度の取組計画

- ・ふるさと認証食品制度の活用、特にプレミアムの推進
- ・県産農産物を利用した加工食品の開発・販路拡大・広報活動
- ・県産農産物の契約栽培の推進
- ・各種フェア、イベントに積極出展(オンライン開催中心に)
埼玉県 150 周年記念事業への協力、商品作成
- ・積極的な情報発信
- ・県産地酒及び加工食品を PR できる動画(ユーチューブ)制作

【一般社団法人埼玉県青果市場連合会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 会報誌への資料掲載と取組に向けたPR。(随時)
- ・ 県産野菜の量販店での販売促進。
- ・ 『行田在来えだまめ』の県内流通(販売：10月)
行田市及び熊谷市妻沼地区で生産される甘味が強く特有の風味をもつ「行田在来えだまめ」の契約取引を平成26年度から実施。
令和2年度の取引は県内5市場を通じて行われ、約2.1tを県内の量販店等で販売。
- ・ 『丸系八つ頭』の県内流通(販売：11～12月)
丸形で皮が剥きやすく、甘みがあってホクホクした食感を持つ「丸系八つ頭」の契約取引を平成27年度から実施。
令和2年度の取引は県内4市場を通じて行われ、約7.8tを県内の量販店等で販売。
- ・ 『秩父カボス』について
JAちちぶと県内6市場との間で9月に販売促進に向けて情報を交換。
新たに県内の量販店・直売所で販売。

○ 令和3年度の取組計画

- ・ 会報誌への資料掲載と取組に向けたPR。(随時)
- ・ 県産野菜の量販店での販売促進。
「行田在来えだまめ」「丸系八つ頭」について引き続き推進。
- ・ 県内の産地と市場との間で、契約取引等を推進するため情報交換会を開催。

【公益財団法人埼玉県学校給食会】

○ 令和2年度の取組

- ・学校給食への県産農産物導入の推進



さば味噌煮(彩花みそ使用)



いわし梅煮(彩花しょうゆ使用)



さんまみぞれ煮(彩花しょうゆ使用)



狭山和紅茶アップルパイ

(狭山和紅茶パウダー使用)

- ・関連団体と連携し、児童生徒向けに埼玉県産農産物ポスター「大豆のコトをもっと知ろう！！」を作成



- ・生きる力をはぐくむ食に関する指導モデル校等支援事業(19校(所))
 - ・学校給食調理コンクール
(今までの応募献立作品の中から、特に印象に残る献立をカード形式にしてホームページに掲載)
 - ・11月の彩の国ふるさと学校給食月間に「彩の国学校給食研究大会」を開催(11月6日)
- ※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの事業が中止となりました。

○ 令和3年度の取組計画

| 実施時期 | 実施内容・対象・回数等 | 実施会場・場所 |
|---|---|--|
| <p>4月 13、14、 16、20 日 6月 8 日 6月 18 日 7月 6、21 日 7月 30 日 8月 20 日 10月 8 日 10月 17 日 11月 10 日 11月 2 日</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への県産農産物導入の推進及び、県産農産物利用食材の開発を行う。 ・関係団体と連携し、県内全児童・生徒を対象に県産農産物の給食への利用状況及び生産状況を紹介するリーフレットを作成し、地域農業・県産農産物への理解を深め地産地消と食育の促進を図る。 ・生きる力をはぐくむ食に関する指導モデル校等支援事業を行う。(20校(所)) ・業務説明会(本会の事業説明及び取扱食材の紹介) 中止 ・学校給食調理講習会(栄養教諭、学校栄養職員対象)県産農畜産物を利用した調理実習 レシピの配布またはホームページに掲載 ・学校における食育推進教材活用研修会(栄養教諭、学校栄養職員対象)食に関する指導用教材を活用した研修会 研修内容を録画または資料をホームページ上で紹介 ・学校給食調理コンクール(栄養教諭、学校栄養職員、調理従事者対象) 二次審査の実技も書類審査にすることも検討 ・親子産地見学会 農畜産物の生産や加工、流通等について理解を深めるため、親子による産地見学会を行う。 中止 ・学校給食親子料理教室 食育を支援するため親子を対象とした家庭で役立つ講習会を行う。中止 ・学校給食用牛乳利用調理講習会(栄養教諭、学校栄養職員対象) ・親子体験教室 学校給食用のパンについて理解を深めるため、親子によるパン作り体験教室を開催する。 ・学校給食教室 学校給食の重要性やあり方及び学校給食用食材について、保護者のより一層の理解を図るため開催する。 ・彩の国学校給食研究大会 彩の国ふるさと学校給食月間にあわせ、学校給食調理コンクールの表彰も行う。 | <p>学校給食会 学校給食会 学校給食会 学校給食会 学校給食会 未定 学校給食会 学校給食会 指定パン工場 学校給食会 桶川市民ホール</p> |

【一般社団法人埼玉県商工会議所連合会】

○ 令和2年度の取組

| 会議所名 | 名称 | 取り組み内容 | 実施時期 |
|------|-------------------------|--|---|
| さいたま | ついたちまんじゅう | ついたちまんじゅうの会会員店舗全店のついたちまんじゅう集合販売 ①浦和駅改札出口向かい販売特設ブース ②そごう大宮店、高島屋大宮店 | ①6月1日 (中止) 7月1日 11月1日 ②毎月1日 |
| | | 毎月1日ついたちまんじゅうの会会員店舗及び提携大型店(与野フードセンター、イオン等)によるついたちまんじゅうの製造・販売の継続 | 毎月1日 |
| | | 各種関係団体によるイベントでのPR活動 | 通年 |
| 秩父 | 小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト | 秩父の和点心「小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト」の継続・推進 | 通年 |
| 深谷 | ふかやカレーやきそば | 深谷市産業祭他、各種関係団体によるイベント等でのPR活動 | 深谷市産業祭及びその他イベント等は中止 専用WEBサイト、パンフレット、会報等でPR |
| | 渋沢栄一翁関連事業 | 渋沢栄一翁関連商品のチラシ等による販売促進活動 事業所の開発した新商品・サービス等の販売促進、テストマーケティングを兼ねたお披露目イベント等の開催 | 通年 新商品お披露目イベントは中止 チラシ・パンフレット等での周知 |
| | 地域資源情報サイト「FUKAYA-BRAND」 | 地域資源活用商品の開発を支援し、開発後の商品・サービス等を専用サイトに掲載することで販売促進活動を行い、販路拡大に繋げた。 | 通年 |

○ 令和3年度の取組計画

| 会議所名 | 名称 | 取り組み内容 | 実施時期 |
|------|-------------------------|---|--|
| さいたま | ついたちまんじゅう | ついたちまんじゅうの会会員店舗全店のついたちまんじゅう集合販売 ①浦和駅改札出口向かい販売特設ブース ②そごう大宮店、高島屋大宮店 | ①7月1日 11月1日 ②毎月1日 (1月を除く) |
| | | 各種関係団体によるイベントでのPR活動 | 通年 |
| 秩父 | 小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト | 秩父の和点心「小昼飯(こぢゅうはん)プロジェクト」を継続・推進する。 | 通年 |
| 深谷 | ふかやカレーやきそば | ・専用WEBサイトやパンフレット、会報誌等でのPR ・深谷市産業祭(11月)、各種関係団体主催イベント等への出店PR活動 | 通年 ※イベント等への出店は新型コロナウイルス感染症の収束状況等による |
| | 渋沢栄一翁関連事業 | ・渋沢栄一翁関連商品のチラシ等による販売促進活動 ・事業所の開発した新商品・サービス等の販売促進 ・深谷商工会議所オリジナルロゴマークの活用促進 ・渋沢栄一翁が好んで食べた「煮ほうとう」のPR活動 | 通年 |
| | 地域資源情報サイト「FUKAYA-BRAND」 | 地域資源活用商品の開発を支援し、開発後の商品・サービス等を専用サイトに掲載することで販売促進活動を行い、販路拡大に繋げる | 通年 |

【埼玉県商工会連合会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 商工会や商工業者による県内農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・ 商工祭・産業祭等における地域特産品の販売促進
- ・ 会報「彩の国商工会だより」で地域の取り組みを随時PR
- ・ 池袋サンシャインシティで開催された全国物産展において、特産品開発業者の出展を支援
- ・ 国、県の補助金事業に関する情報提供と申請支援

○ 令和3年度の取組計画

- ・ 商工会や商工業者による県内農産物を活用した特産品開発や販路開拓の支援
- ・ 商工祭・産業祭等における地域特産品の販売促進
- ・ 会報「彩の国商工会だより」で地域の取り組みを随時PR
- ・ 池袋サンシャインシティで開催された全国物産展において、特産品開発業者の出展を支援
- ・ 国、県の補助金事業に関する情報提供と申請支援

【一般社団法人埼玉県食品衛生協会】

○ 令和2年度の取組

- ・ 食中毒予防の啓発

夏季の食中毒予防月間、冬季のノロウイルス食中毒予防強化期間を中心に、食中毒予防キャンペーンや衛生講習会を開催し、啓発物の配布や手洗いチェッカーによる指導を行った。

- ・ 食品衛生に関する各種講習会の開催

食品衛生責任者資格者養成講習会を浦和と熊谷会場において70回開催し、3,525名の食品衛生責任者を養成した。また、HACCP導入講習会を58回開催し、衛生管理計画の作成と記録方法の習得を促した。

- ・ 食品衛生指導員による施設の巡回指導

食品衛生指導員510名が食品営業施設を巡回し、自主管理の徹底、ノロウイルスの注意喚起、HACCPによる衛生管理等を指導した。

- ・ ホームページの掲載

当協会ホームページで地産地消・登録サポート店について紹介した。

○ 令和3年度の取組計画

昨年度と同様の事業を行うほか、特に食品営業者のHACCPによる衛生管理を推進していく。